

# いつまで続く未配置問題

## 「9ヶ月・8ヶ月来ていない」昨年度の未配置状況

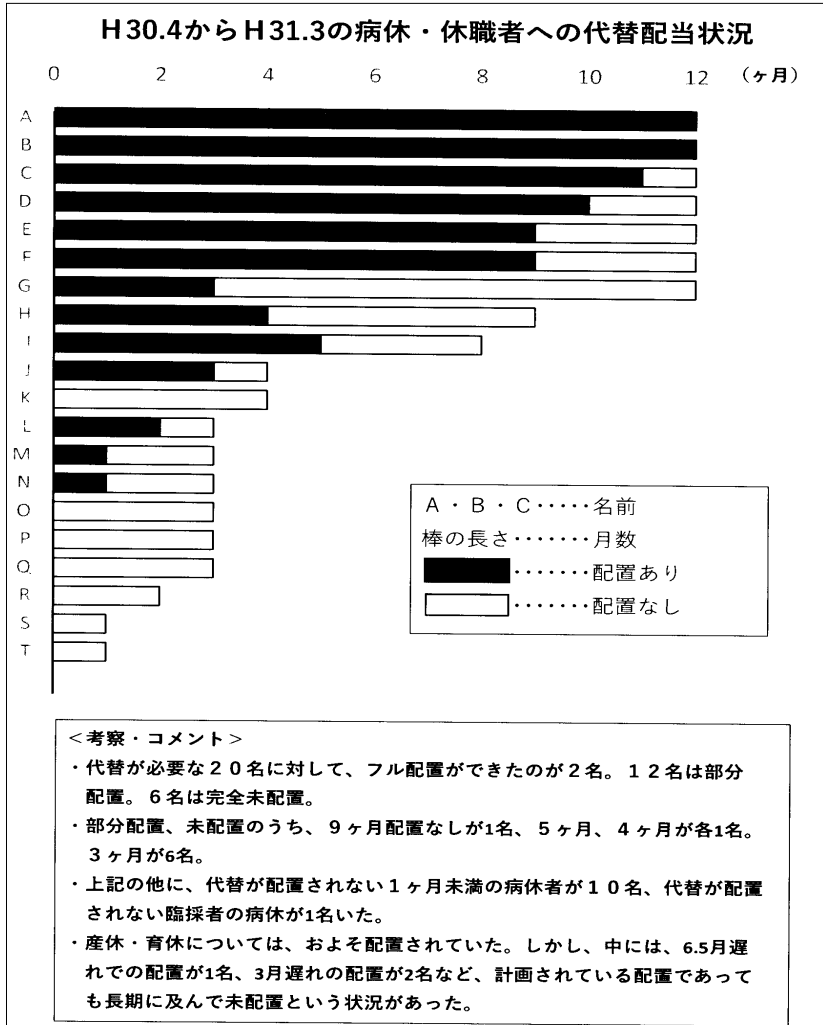
# 越教組ニュース

越谷市教職員組合  
情宣部  
19.06.25(火)  
Tel 988-3281  
Fax 988-3283

教員の働き方が話題になっています。学校現場で、働き方がしんどくなる最たるものは何でしょうか。教職員の未配置・未補充の問題は、現場に決定的な負担をもたらします。病休や休職のために代替者が必要な場合、本来県が責任を持って配置しなければならぬのですが、現状はご存じの通り未配置が多く、中には9ヶ月も放っておかれている学校も。組合は、早急にこの代替制度の改善を含め、完全配置を求めています。

## 病休・休職への未配置状況

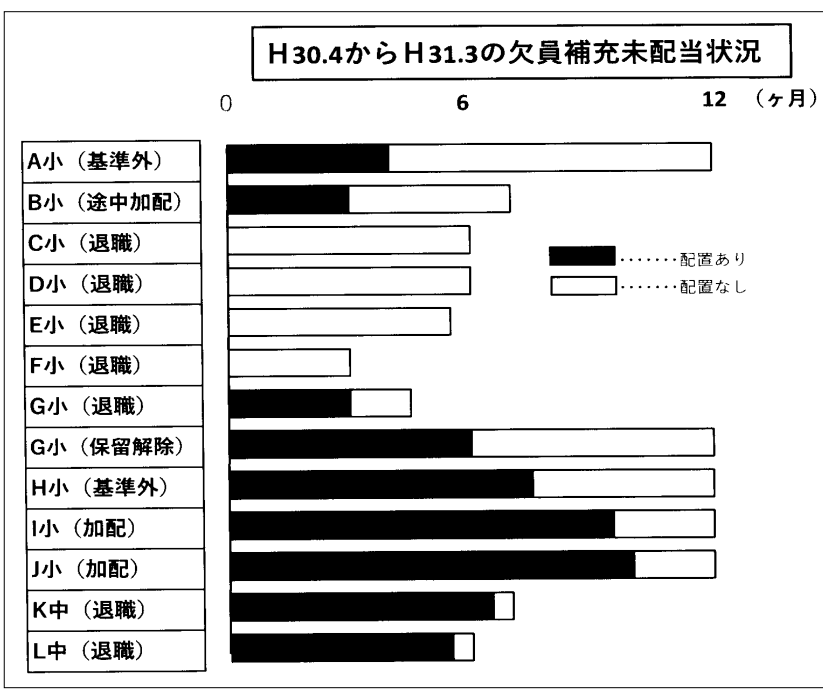
左の表は、越谷市の代替の状況をまとめたものです。この一年間で代替が必要とされた病休・休職の方は二〇人。そのうちフルで配置されたのは二件のみ。他の十八件は期日通りに配置されていません。そのうち六件は結局配置なしで終わっています。



越教組は、「配置は県の責任だが、このような未配置の状況は、現場に大きな負担をもたらすことになる。ひいては児童生徒の学習権にも影響を及ぼすことになる」と、市教委に対し、期日通りの配置を繰り返し要求してきました。

## 欠員補充への未配置状況

病休・休職への代替とともに大きな問題は、欠員補充への配当状況です。これは、あらかじめ臨探者を充てる予定の枠なのですが、そこが埋まらないという問題です。



・E・F小の場合には、6ヶ月で退職され、その後次の方が見つからないということなのでしょう。G小では、保留学籍が解除されたのに人が見つからず、6ヶ月待たされています。なお、今年度の六月一日現在では、欠員補充の未配置は解消されています。このように欠員補充への

未配当も、現場に大きな影響を与えています。県には制度を設計する権限があるのです。状況は待たなすです。公務員の倫理を唱える県教委にこそ、法を守る範を示してほしいものです。毎日新聞は(2018年度の小学校の採用試験倍率は)「就職氷河期に公務員が人気だった二〇〇〇年度(12・5倍)の4分の1程度に落ち込んでいる。3倍を切ると質の維持が難しくなると言われ、『危険水域』に近づいている。」と述べています(本年5月10日)。教師の仕事はブラックだということ、今や周知のこととなっています。今のままの長時間過密労働では、教職の人気は下がる一方です。学校を、多くの人にとって働きやすい職場、魅力的な職場にしていくことなしには、この問題の解決はないでしょう。

